

アイシェヌール テクメン  
Ayse Nur Tekmen

# 「ブルガリア」ではない!! ～元祖ヨーグルト国・トルコ～



別荘に行った。その日のメニユーはバーベキュー。骨付き羊肉やキョフテ(トルコ風ミートボール)、野菜サラダ、ご飯、おつまみなどが並んでいた。さあ、食べようとした瞬間、友達が言った。「さあ、食べようとした瞬間、友達が言った。」「へえええ、そうやって食べるの!」「うん、おいしいよ。食べてみる?」「うん。食べなさい。」数分後、友達が叫んだ。「わああ、本当に食べちゃって!」

次の日、揚げたナスと野菜(シシトウに似た野菜)の上にかけるニンニク味のヨーグルトソースを作った。その友達はまた不思議そうに言った。「なに、このソース、何のため?」「ああ、この揚げものにかけるよ。」「何が入っているの?」「ヨーグルトとニンニク。」「へええ、これにもヨーグルトがけるの!」

もちろん、ヨーグルトはこうしてメイン料理にかけるソースとしてだけ使われるわけではない。肉を焼く前にヨーグルトに漬け込んだり、またお粥というトルコのお酒のつまみにはヨーグルトを使った前菜がとてよく合う。Mantiという中華料理のワンタンに似た食べ物がある。トルコ料理にもあるのだが、それにもニンニク入りヨーグルト(もちろんニンニク嫌いな人はヨーグルトだけでも)をかけ、さらにバターやオリブオイルをもとに作ったトマトソースやスパイスをかけて食べる。こうして、毎日何らかの形でヨーグルトを食べているのを見た友達は最後に驚いた顔でこう言った。「すごい!!! トルコ人は何もかもヨーグルトと一緒に食べるんだ!」

トルコ人はよくヨーグルトを食べる。だから、スーパーではパケツのような容器に入った3キロ入りのヨーグルトまで売られている。さらに、ヨーグルトは食べるだけでなく、水と塩を混ぜ、飲むヨーグルトAyranを作るためのものもある。暑い夏の日には夏バテを避けるためにニンニク、塩、キウウリと水、そしてヨーグルトを混ぜての酸味というスープの一種を作る。トルコのスーパーでヨーグルト売り場を見れば、種類の多さなどから私たちがいかにヨーグルトと密着した食生活を送っているかを感じてもらえるだろう。

12年ほど前に日本で、すき焼きは生卵で食べるものだと言われ、「いやだ!」と思っただが、「生卵で食べなさい」とあまりにも強く言われたので、意地を張って、それならヨーグルトにつけると言ってしまったことがある。いちは、言い出したからには、とヨーグルトをかけた分は食べなさい、正直言って、そんなまずいもの生まれてこのかた食べたことがなかった。すき焼きを生卵で食べられないのなら、そのまま食べればよかったのだ……。しかしこれほどまでに、ヨーグルトはトルコの食文化においては日本の醤油みたく、私たちの「食」にとって最も身近で基本的なものである。

外国に長期滞在して初めて「トルコは……」と考えた。「珍しい」「面白い」と言われれば言われるほど、それまで気づいていなかった母国の文化の魅力的な一面に気づくようになってきた。「私」と言うだけで「日本語、お上手ですわね!」とお世辞(?)を言われるのと同様に、「珍しい」「面白い」と言われるのも、あなたの国に興味がある、という意味のお世辞を言っているのではないかと思っただけのこともある。しかし、そうでもなかった。人は自分の国に居るときはその文化の特徴にあまり気づかない。何もかもを当然と思っただけである。私は日本人から「面白い、珍しい」と言われて初めて自分の国の文化的魅力に気づいた。その一つは、トルコのヨーグルト文化である。

日本でもブルガリアヨーグルト、カスピ海ヨーグルトなどと名づけられた「ヨーグルト」という言葉は、実はトルコ

コ語からきた言葉であり、もともとトルコ食文化における重要な素材であることを存じだろか。ブルガリアはトルコの隣国で歴史的なつながりもあり、ヨーグルトが食文化の重要な要素であるという点でも共通しているが、ブルガリアだけではなく世界中どこでもヨーグルトはそのまま「ヨーグルト」と呼ばれていて、今や世界的な言葉になっている。しかし、それぞれの文化の影響で各国にそれぞれのヨーグルト文化が存在している。今回はトルコ人のヨーグルトに対する思いを、日本での体験を通して書こうと思っただけである。

数年前、日本に住んでいた私は蒸し暑い梅雨のさなか、突然ヨーグルトを食べたくなった。さっそく行った近くのコンビニで見つけた小さい果物入りのヨーグルトはトルコで言うところのヨーグルトとはかなり違うように見えた。私にとってヨーグルトとは少しすっぱみのある、プレーンなものである。結局、500グラム入りのプレーンヨーグルトを買って帰った。そしてヨーグルトのふたを開けると中に小さい袋が入っている。乾燥剤かと思いき、机の上に置きかけたところ、なんと「砂糖!!!」袋を開けて味見を確認してみたが、やっぱり砂糖だった。これはちょっとしたカルチャーショックだった。ヨーグルトに砂糖を入れて食べるなんて、トルコでは子供ならありえるが、大人には受け入れ難い。しかも、そのヨーグルトは砂糖を入れないで食べても十分甘く感じた。この一件の後、様々なメーカーのヨーグルトを試してみた。一番甘くないと言われたものでも私にとってはやっぱり甘い。その後、ヨーグルトはデザートだと日本人の友達に言われたときは非常にショックで違和感を感じた。ヨーグルトをデザートとして考えたことはなかった。

何年か経って、今度は日本人の友達が観光でトルコにやって来た。一緒に実家の

## 愛書狂

教育雑誌の編集をやっている友人に「ちょっと感想を聞かせて」と頼まれ、読者アンケートの一部を見せてもらった。読書特集の下調査アンケートで、回答者は主に親と教師である。この回答が、なんというかカンというか、「私は読み聞かせボランティアで学校に10年通っています。本は心を豊かにするので、自分の子どもにはいやがる日も読み聞かせをやっています」という人が「今までに感銘を受けた本は?」という質問には「本はあまり読まない(きっぱり) 同じく、読み聞かせ隊」のお母さん、とにかく本は心を豊かにするし、どんなときでも助けになってくれる。学力の基礎でもあり、絶対に欠かせない」といいながら、「今までに感銘を受けた本」は「悪女とか、男と女とか、女としてとか、そんなエッセーを大学時代にたくさん読んだ」。正直というか、てらいいがないというか、取り繕いがまるで感じられないのがすばらしい。これを見てしまっ

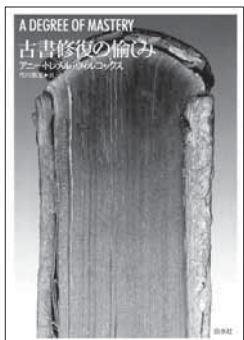
て以来、「本は大切」と判で押したようにいう大人の意見がすべて信じられなくなっ

た。鬼門は、感銘を受けた本」という設問で、どんなに立派なお題目を唱えていても、これを見た途端、信頼が瓦解する。偉そうなことをいう読書指導の方々にせよこの質問を! といいつつ改めて「感銘を受けた本」を問われたら、私自身も困惑するだろうと気がついた。「別になし」とか書きそうだが、だって何で答えるんですか。漱石とか鶴外とかドストエフスキーとか? カッコワリじゃないですか。かたい評論? マイナーな詩集? よけいカッコワリイでしょう。「感銘本」は自己意識を測る道具、あれから考え続けているが、これぞという一冊が思いつかない。(洗)

# 書物への愛

## 「古書修復の愉しみ」

アー・T・ウィルコックス〔著〕



前の職人になるという一種の成長物語となっており、失敗や苦勞も含めて徒弟時代の興味深いエピソードの数々がユーモアを交えて語られる。

本書はアメリカの一流製本工芸・書籍修復家ウィリアム・アンソニーに女性として初めて弟子入りした著者が、書籍修復家として成長する過程を自伝的に綴った回想録である。

その魅力は、書籍修復、それも西洋の古い稀覯本という一般の人がほとんど知らない特殊な世界を具体的な技術を含め、実

に詳しく面白く、いきいきと描き出している点にある。

いきなり修復作業の現場から始まる書き出しも巧みで、読者は目をみはる思いで作業工程のひとつひとつをたどってゆくことになる。といつても技術的な手引き書ではない。壊れた本の直し方について、職人の命の道具について、情熱をこめて語る

著者の筆致は、無味乾燥な技法の記述とはほど遠い。書物の美に魅入られた人間が、自らの体験に基づき、製本工芸という仕事の技を学ぶ愉しみ、実践する喜びをつづつたところに面白さがある。

本書はまた師との出会いから、弟子としての修業時代、そして師匠の死を乗り越えて一人の近くで常宿があった小官吏がフカもまた、この不思議な棒に想を得て、プロメテウスに関する小さなものがたりを書き残した……

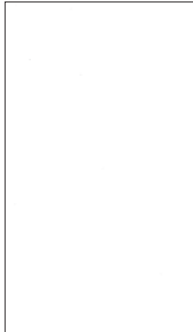
他にも、ヴェローナの円形劇場、ワルシャワの動物園前、ベルリンの植木屋、ブダペストの鍛冶屋など、楽しいエッセイが全二十七篇収録されている。

# 日常という扉の向こうに広がる光景

## 「孔雀の羽の目がみてる」

蜂飼 耳〔著〕

### 孔雀の羽の目がみてる



また対象となる事物や人、たとえば愛着のある作家であったり、祖母をはじめとする家族であったり、あるいはただ偶然すれ違っただけの誰かであったりなどへの、静かな愛情や敬意に支えられ、少し遠慮気味な距離感で、アンビヴァレン

平成十二年に処女詩集『いまにももうおつていく陣地』で第五回中原中也賞を受賞し、めきめきと頭角をあらわした現代詩のホープによる、はじめてのエッセイ集。日常という扉の向こうに広がる光景、出来事、生きものなどについての、繊細でありながら鋭いまなざしや、さりげなく丁寧な選ばれたことばがページをめくることさらに凝らされており、いとおいしいものに目を凝らし、耳を澄ませる作者の姿勢がこころよく伝わってくる。

感が、ことばに対するアンビヴァレントな思いや誠実さを感じさせている。「子どもころ、近くの公園に孔雀がいた。くるりとひと回りするほどの広さしかない檻のなかで孔雀は尾羽を引きずり、もてあましてるように見えた。羽を開くところを見たい。そう思い呼びかけるが、孔雀はつまらなさそうだった。ある日、孔雀は怒った。突然ばあつと開いた羽の先に模様の目がいくつもならんだ。いくつもならんでいっせいに見た。この瞬間を憶えておこうと思った」(本文より)

菊地信義の、この作家へのオマージュともいえる装幀が本書をひとときわきわたらせ、上質なエッセイを求める読者に、書物をひもとく期待感をふくらませている。 四六判 一九八頁 定価一九九五円(本体一九〇〇円)

# 名著復刊

## 「フランス啓蒙思想入門」(新装版)

J・H・プラムフィット〔著〕



「フランス啓蒙思想を紹介した書物は、今までも何冊か読んで来ているが、このプラムフィットの著書のように小さくて面白くて役に立つ本には殆ど出会わなかった」。戦前戦後を通じて日本の社会学をリードしてきた清水幾太郎は、本書を訳出した理由を「訳者後記」にこう記している。

現代思想の原点とも言えるフランス啓蒙思想を明解に読み説く本書の特長をいくつかあげてみよう。

まず、この思想を遊ばせればデカルトやニュートンに辿りつくわけだが、元来自然研究の方法であったその科学が、彼らが夢にも思わなかった政治、宗教、社会の研究・批判に用いられるようになる次第が興味深く描かれている。また他書では一般に、首尾一貫して科学的で進歩的であったかのよう

に書かれていることが多いモンテスキュー、ヴォルテール、デイドロら多くの啓蒙思想がフランス革命を準備したという従来の説を検証し、あらゆる社会に普遍的に適用されるように思い込まれている。「自由」や「平等」という概念が時代状況によっていかに異なる意味を持つかを考えるうえで、本書は貴重な示唆を与えてくれるだろう。 清水幾太郎訳 四六判 二一六頁 定価二二二五円(本体二一〇〇円)

# 旅の達人によるヨーロッパの歩き方

## 「町角ものがたり」

池内 紀〔著〕



秋の観光シーズンに向けて、「少し上いく大人のひとり旅」をおすすめする。ヨーロッパはもう何度も訪れたことがあるので、もっと珍しい国に行きたいと考えているあなたにこそ、ぜひ読んでほしい一冊。

本書は、ゲテヤカフカなどの名翻訳家であり、山や温泉をこよなく愛し、近年旅のエッセイも数多く発表している著者が、得意なドイツ・オーストリアを中心にヨーロッパ十五カ国

を歩き、ガイドブックが教えてくれない「町角」の魅力を引きききと描いた上級者向けの旅の本。たとえばウィーン。この町を訪れた人はだれでも、かならず一度は通ったはずの場所がある。観光の目玉であるオペラ座と大聖堂を結ぶ、鉄の棒「広場」しかしこの一角の建物の外壁に半ばめり込んだように立つ、人体のような奇怪な鉄の棒には、だれも気づかない。無数の釘が打ち込まれた町角の妖怪には、いくつもの興味深い言い伝えがある。ウィーンの美術学校の入試に失敗し続けた若き日のヒトラーは、かつてこの棒を自分の分身のように眺めていた。広場

# 孫猫に「生と死」の意味を語る

A・N・ウィルソン〔作〕



ふさふさした大きなしっぽが特徴で、「パフテイル」と呼ばれるノラ猫が本書の語り手。孫息子の子猫に向かつて、自らの放浪の生涯を振り返る。一匹のきょうだいとともに母親から引き離され、悪徳ペットショップに売られてからというものの、各地を転々とし、さまざまな運命に見舞われる。

猫好きのやさしい人間ともめぐり合うが、走る車の窓から投げつけられる、命を落とすしうになったり、猫の独裁者が支配するノラ猫集団の一員になったり、研究所で実験の材料にされたり……と、波乱の日々を送る。

猫らしい猫たることを良しとしてきたこの「さすらい猫」は、殺した獲物の味いさや、小鳥を殺す前にさんざんいたがる楽しさも孫猫に語る。

また、人間にたいする辛らつで皮肉なまなざしと物言いは、はつとさせられる。本書のタイトルは人間社会に

# 肉声が聞こえる一級資料

## 「エーゴン・シーレ 日記と手紙」(新装版)

大久保寛二〔編訳〕



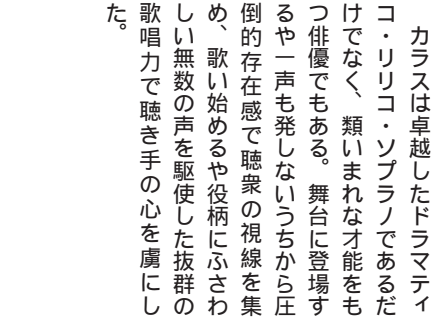
エーゴン・シーレは、鋭い描線に表現主義的な激しい感情表出をみせ、現代美術において高い評価と人気を集めている画家である。本書は、一九一八年、わずか二十八歳で

折したシーレが残した日記、手紙、散文詩などから彼の肉声を聞きつつ、シーレの芸術の魔力、死とエロティシズムの秘密を解き明かしてくれる一級資料である。

第一部「戦中日記」からは、第一次大戦で陸軍の後方勤務についた

紙は、戦争そのものと同様に、何も実りをもたらさないまま過ぎていく軍隊生活を日記に書きとめている。

第二部「シーレの手紙」は、手紙を宛先別、年月日順に並べた。シーレは、家族に思いをぶつける手紙をはじめ、創作や経済上の悩みを批評家や支援者に数多く書き送っている。



# 「マリヤ・カラス 聖なる怪物」

ステリオス・ガラトプロス〔著〕

本書は、カラスの歌手としての軌跡を忠実にたどった評伝である。邪悪で醜い印象を与えるマクベス夫人を迫真の演技で伝え、さらにはヒロインのノルマ、ルチア、トスカの心の葛藤を声によって掘り下げていくあたり、役づくりに賭ける彼女のすさまじいまでの探求心に驚かされる。

いっぽう伝記的記述も興味本位でなく、ギリシアの貧しい生い立ちから書き起こし、絶頂をきわめ、そして急速に黄昏を迎えた劇的な生涯を、暖みのある、しかしけつして公平さを失わない目で追っている。音楽的業績を扱った部分とのバランスもよく、『カラス大全』とも呼ぶべき稀有の書だ。収録されて

いる数百葉におよぶカラスの舞台写真は、それだけでも貴重なものだが、そこに添えられたキャプションは、キャプションの枠を超え、著者みずからの公演評と化して、読み応えがある(著者は、一九四七年のイタリ

ア・デビュー時からカラスに注目しつづけて、やがてカラスとの交友を深め、その信頼を勝ち得た唯一のオペラ評論家)。二十世紀が生んだ最高のオペラ歌手カラスの真の姿を、原点到立ち戻って見つめ直した掛け値なしの決定版評伝である。 高橋早苗訳 A5判 六〇八頁 定価五〇四〇円(本体四八〇〇円) 9月下旬発売

定価二二二五円(本体二一〇〇円) 9月下旬発売

# 白水社 海外小説復刊フェア2004

9月下旬刊行

【宮城】ジュンク堂書店仙台店 【東京】紀伊國屋書店新宿本店、ブックファースト渋谷店、オリオン書房立川ノルテ店 【神奈川】有隣堂横浜西口店 【大阪】ジュンク堂書店大阪本店 【岡山】紀伊國屋書店クレド岡山店 【福岡】ジュンク堂書店福岡店ほか、全国有力書店にて9月末よりブックフェアが開催されます。

## サートリス

ウィリアム・フォークナー「作」林信行「訳」

第一次世界大戦で双子の弟を亡くし、傷心を抱えて帰還した、南部貴族サートリス家のヤング・ベイヤー。彼の悲劇的な生涯、血縁者「ヨクナパトゥファ」の人物との物語。「ヨクナパトゥファ」とは、フォークナーの故郷ミシシッピ州の田舎町をモデルにした土地。それは「掘り尽くせぬ金鉱」の発見となり、数々の代表作に舞台を提供することになった。

本書は、南北戦争の英雄だった曾祖父から続く一族の残照を背景に、「失われた世代」の青年の虚無と絶望を描く。初期傑作長編。 四六判 三三三頁 定価三〇四〇円（本体二九〇〇円）

## フランドルへの道

クロード・シモン「作」平岡篤雄「訳」

第二次世界大戦でフランス軍の大敗北を体験した男ジョルジュは、戦後のある夜の数時間のうちに、妻の横で「すべて」を思い出す。ド・レシャック大尉の自殺、イグレシアとコリンヌの浮気、フランドル街道にたおれた馬の死

骸のこともを。 はてしなく降りつづく戦場の雨。あやかな競馬大会、ずぶぬれになってもつれあつた情事……戦争とセックスの記憶が豊潤なる言葉のフィールドに疾駆する本書は、ノーベル賞作家による記念碑的な傑作小説。ヌーヴォーロマンの金字塔だ。 四六判 三〇四頁 定価二九四〇円（本体二八〇〇円）

## 最後の一人ノ期待 忘却

モーリス・ブランショ「作」豊崎光「訳」

ミシェル・フーコーはモーリス・ブランショを「最後の作家」と呼んだ。ブランショは批評家であると同時にすぐれた作家でもあった。本書には、自己と他者、期待と忘却の交錯する言語空間を緊迫した儀式性にまで高めた傑作二

編を収録。お互いがお互いの無限の隔たりであり、外であるというテーマ、文学空間そのものが男女の対話という形で、ブランショの驚くべき達成がここに実現している。閉ざされた空間（療養所、ホテル）での男女の限らない対話は一種抽象的恋愛小説でもあり、次の「終りなき対話」を予告している。 四六判 三〇〇頁 定価二九四〇円（本体二八〇〇円）

## 初恋ノメルシエとカミエ

サミュエル・ベケット「作」安堂信世「訳」

『初恋』は「わたし」で始まる一人称小説の試作として書かれた短編小説。また『メルシエとカミエ』は『ゴドーを待ちながら』を思わせる二人連れが主人公のフランス語で書かれた初めての長編小説。二作品とも一九四六年頃に

執筆されたが、七〇年になるまで作者が発表を許さず、うわさが先行した作品として名高い。 いずれもベケットの創作過程の秘密を明らかにするばかりでなく、次第に失われてゆく抒情性がまだ豊かに表現されているという点でも、ほかの作品には見られない魅力がある。 四六判 三三〇頁 定価二九四〇円（本体二八〇〇円）

## 子供の領分

モニック・ウィティグ「作」小佐井伸「訳」

「ロベール・ペーヤンという男の子が一番あとから教室にはいつて来る。ぼくのおちんちん見たいひと、だあれ、と大きな声で言いながら。」 こう唐突に始まる本書には、人物の性格描写や心理分析

も、また伝統的な小説が持っているような筋もなく、全篇を通して一人の少女が知覚する世界が、驚くほどの透明感を持って散文詩のように描かれていく。そして人物も植物も屍体さえも、物自体として捉える少女の無垢な眼には、幼年特有の残酷さが潜む。デュラスやシモンも絶賛した、メデインス賞受賞作。 四六判 二八〇頁 定価二八三五円（本体二七〇〇円）

## 南

イヴ・ベルジエ「作」濱崎史朗「訳」

南フランスの田舎で広い農園を営む父は、一八四二年ごろのアメリカ南部ヴァージニアを楽園として崇拝していた。必要最小限の文明と、広々とした自然。そこでは白人も黒人と共存し、動物が人間と共生していた。父にとつて

以後の文明の発達はずれでしかなかった。 「ぼく」と姉のヴィルジニアはそんな父の妄執の下に育つが、姉はやがて家を出て町のリセに入り、次いで「ぼく」も姉のあとを追った。父の影を振り回らおうとするかのようになり、「ぼく」と姉は禁断の愛に耽る……。清冽な叙情みながる神話的な小説。フェミニナ賞受賞。 四六判 二八七頁 定価二七三〇円（本体二六〇〇円）

## 白水Uブックス……名著を新書で

### 「チベット旅行記」④⑤

U1072/U1073 河口慧海「著」

ひたすら求道の情熱に身を任せ、明治三十三年、日本人として最初にチベットに入国した河口慧海。その間の顛末を記した旅行記は資料価値の高い名著であり、抜群に面白い読み物である。各巻地図・写真付き。 （上巻）明治三十年六月、神戸港を出発。インドに寄つた後、装備も不十分なまま勇躍ヒマラヤ越えに挑む。 （下巻）ついにチベットに入った慧海は、念願の仏教大学に入学を許された。法王ダライ・ラマにも面会でき、順調な毎日を送っていたが、次第に外国人ではないかという噂がたちはじめ、やむなくラサを離れる決心をする。だが、この国を出るには乗り越えなければならぬ関所がいくつも待ち構えていた……。 長沢和俊編 新書判 ④三三三頁 ⑤二九〇頁 各定価九八八円（本体九五〇円） 解説 深田久弥

### 「縞模様の歴史 悪魔の布」

U1074 ミシェル・パストゥロ「著」

中世西欧社会では、文章や図像のなかに縞模様の衣服を身につけた人物がたくさん登場する。彼らはみな、なんらかの意味で疎外・排斥された者たちである。ユダヤ人、宗教的異端者、道化、旅芸人、死刑執行人や娼婦、さらには叙事詩の中の邪悪な騎士や聖書の悪役なども縞模様の服を着せられている。なぜ縞模様のなの？

本書は、フランスの紋章学者であり動物植物や色彩の文化史のユニークな研究者として知られる著者が、この縞模様の謎に挑んだものである。考察の範囲は中世からルネサンス、ロマン主義の時代を経て現代におよび、また対象も服飾に限定されず、紋章や旗、交通標識から芸術作品まで幅広い。 松村剛、松村恵理訳 新書判 一五七頁 定価九四〇円（本体九〇〇円）

### 「ニーチェの贈りもの ストレスに悩むあなたに」

U1075 ウルズラ・ミヒェルス・ヴェンツ「編」

思索を通して人生への愛と肯定を説きつづけた哲学者、フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ。本書は、彼のさまざまな著作のなかから、恋愛、仕事、孤独、信仰、健康、幸福、出産などについて語られた三五二の言葉を選び出したアンソロジーである。

このなかには、ともすればニーチェ思想のキーワードとされる「超人」「永遠の帰郷」「力への意志」「ヒリズム」などの言葉は含まれていないが、自分に対するこまかした妥協のない生き方を説くニーチェの深く細やかな言葉の数々は、かならずや読む者を立ち止まらせ、きびしい人生を生きぬく力を与えてくれる。考えることがストレスではなく、考えないことがストレスになることを教えてくれる一冊。清水本裕訳 新書判 一七六頁 定価九四〇円（本体九〇〇円）

【限定復刊】9月21日発売

限定600セット / 予約受付中

森羅万象の実体を「意志」と見て近代哲学への扉を開いたショーペンハウアーは、稀有の名文家としても知られている。その筆致はラディカリズムの中に機知と人生知を包み込み、読む人を魅了してやまない。不朽の名著『意志と表象としての世界』を中心とした初の本邦版全集を復刊する。

## ショーペンハウアー全集

[全14巻・別巻1]

四六判 ■平均 355 頁 ■セット定価 69,300 円 (本体 66,000 円)

ジンメルは社会学者として輝かしい業績を遺す一方、鋭い感性と驚異的博識を駆使して独自の「生の哲学」を樹立した。本著作集は、哲学部門に芸術論、文化論の代表作を加えて編集し、1970年代に刊行されたが、ジンメル復活の気運めざましい今日、多くの要望に応え、復刊する。



## ジンメル著作集

[全12巻]

四六判 ■平均 320 頁 ■セット定価 54,600 円 (本体 52,000 円)

ショーペンハウアー全集、ジンメル著作集ともに分売はいたしません。予約が満数になり次第、締め切らせていただきますので、お早めに書店にご予約下さい。

- 全巻内容
- 1 根拠律の四つの根について
  - 2 意志と表象としての世界 正編 I
  - 3 意志と表象としての世界 正編 II
  - 4 意志と表象としての世界 正編 III
  - 5 意志と表象としての世界 続編 I
  - 6 意志と表象としての世界 続編 II
  - 7 意志と表象としての世界 続編 III
  - 8 自然における意志について
  - 9 倫理学の二つの根本問題
  - 10 哲学小品集 I
  - 11 哲学小品集 II
  - 12 哲学小品集 III
  - 13 哲学小品集 IV
  - 14 哲学小品集 V
- 別ショーペンハウアー◎生涯と思想◎

- 全巻内容
- 1 歴史哲学の諸問題
  - 2 貨幣の哲学 (上)
  - 3 貨幣の哲学 (下)
  - 4 カント
  - 5 ショーペンハウアーとニーチェ
  - 6 哲学の根本問題
  - 7 現代文化の葛藤
  - 8 レンブラント
  - 9 生の哲学
  - 10 芸術の哲学
  - 11 断想
  - 12 橋と扉

「仏伊英 メニューの読み方 書き方」

安部 薫 [著]

フランス料理やイタリア料理の調理人の悩みのひとつに、原語でメニューを書くことがあげられる。たとえ料理の腕がよくても店の前にかかっている、その日のメニューが間違っていたり、綴りに誤りがあれば、それだけでお店の信用を失いかねない。

現在では昔と違って、フランスやイタリアに修業に行く人も増え、フランス語やイタリア語を話すことが得意な料理人も多い。しかし外国語を書くとなるとやはり苦手な料理人も多いのではないだろうか。

本書はこうした料理人ならびにプロをめざす人たちのためのメニューの書き方の入門書。構成は、第1部は基本的なメニューの表記法を説明し、メニューを言語の面から解説する。第2部はフランス語のメニュー/第3部はイタリア語のメニュー/第4部は英語のメニュー。第2部から4部では、それぞれの言語のメニューを実例をあげて、具体的に解説する。各章には練習問題がついており間違いやすい点をチェックできるようになっている。付録として便利な日・仏・伊・英、4か国語対照の料理用語集付き。

2色刷 四六判 250頁 定価2520円(本体2400円)9月下旬発売

「迷わず話せるフランス語 あなたを変える50のヒント(シングルCD付・新装版)」

小倉博史、モーリス・ジャケ、舟杉真一 [著]

フランス語で否定疑問に答えるのに「はい」と「いいえ」が逆になって失敗したことはありませんか。それから「私も.....です」なら言えるけれど、「私も.....ではありません」は何て言うの?

このほか「知っている」と「見知っている」、「聞く」と「聴く」など、間違いやすいポイントをユーモアあふれるスケッチで明快に解説、ネイティブ感覚が身に付く玉手箱。これであなたも話せます。

2色刷 四六判 157頁 定価1995円(本体1900円)

「ステップアップ アラビア語の入門(CD付)」

本田孝一 [著]

本書は好評いただいた『アラビア語の入門』の続編です。前著では扱いきれなかった動詞の派生形など、アラビア語の核となる事項を、会話と文法の両面から徹底的に解説し、初級文法の完成を目指します。また随所に、アラビア書道や詩、料理や買い物のコツなどの文化情報も入れてあります。『アラビア語の入門』の読者の方ももちろん、NHKのアラビア語講座などを修了された方に最適な一冊です。なお、本書は旧版『ステップアップアラビア語』を改題し、CDを付けたものです。

A5判 253頁 定価3570円(本体3400円)

「現代ポルトガル文法」

田所清克、伊藤奈希砂 [著]

ポルトガル語を愛するすべての人に贈る、極めつけの文法書! 簡潔な例文と解説、ていねいな分析で、疑問をつぎつぎに解決します。初級文法を終えたばかりの人でも、これからミッチリ勉強するぞ! という意気込みの人でも、たしかな充実感が得られる、いつでも手元においておきたい便利なレファレンス・ブックです。学習の核となる文法事項はもちろん、発音・語彙・形態・統辞法の特徴、ポルトガル語ならではの様々な言い回しの妙味...すみずみまで説明。例文ごとに語義と品詞分類がくわしく説明されている「辞書いらず」の構成です。

A5判 420頁 定価4830円(本体4600円)9月下旬発売

「合成ドラッグ」

Q878

ミシェル・オートフイユ、ダン・ヴェレラ [著]

ドナルド・ダック、ピーター・パン、ボケモン これらは、フランスにおけるドラッグのストリート・ネームである。今や日本でも第三次覚醒剤乱用期を迎え、若年層への浸透が問題となっている。本書は、まず麻薬中毒の歴史や社会背景を解説し、ヘロイン・コカイン・LSDなどの古典的麻薬と、それらの中毒治療のために開発された合成麻薬の作用を概観していく。そして、MDMA(エクスタシー)に代表される、自然界にはあ

りえない化合物で作られた新合成ドラッグの作用、使用形態、依存性について詳解していく。スポーツにおけるドーピング薬の種類と作用にも触れている。ドラッグ・デザイナーによって次々と「新薬」が開発されている状況や流通経路、関連する法律などから向精神薬の将来を展望し、乱用防止への道を探る。フランスにおけるストリート・ネーム一覧と化学構造式付き。奥田潤、奥田陸子訳 新書判 一四二頁 定価九九九円(本体九五一円)

「ジョージ王朝時代のイギリス」

Q879

ジョルジュ・ミノワ [著]

現英国王室の直接の祖であるジョージ一世は英語を解さないドイツ人で、二世は訛りがひどく大臣たちと意思疎通できなかった。三世は狂気を抱え、四世は放蕩の限りを尽くしたこの四人のジョージがかかげた「君臨すれども統治せず」というスローガンの下、英国は技術、資本、労働力、消費者、自由主義経済思想などの産業革命に必要な要素をそろえてゆく。本書はその過程を文学・建築・絵画・科学などの諸側面から、生彩豊かな筆致で辿つてゆく。

編集者 菅 業 部 だ よ り  
アテネ五輪観戦のため、液晶テレビを衝動買い! ならば生で、と男子サッカー。うん...実力どおり...予選敗退...。メダル獲得と空騒ぎした責任者出てこい! 今ピッチを去るやつらは、疑惑の集団腹痛を乗り越え、過酷なアジア予選の頂点に立ち選ばれた「アテネ戦士」なんだ。オーバーエイジは伸二だ。水分解補給も完璧だぜ! エルの美しさ...。パツと目じゃあ、強豪相手になせ勝てが覚める。(大)

この夏は四年に一度のオリンピックでした。開会式で各国の選手団が入場する順番は、国名のアルファベット表記順というのが通例ですが、今回はギリシア文字のアルファベットが採用されました。ギリシア文字という、などは比較的に見慣れていますが、たとえば「日本」はどのように表記されるのか、中には想像もできません。テレビの中継をかじりつきで見ていた人は正解を存じしてほしい。新聞・雑誌などのオンラインピック特集にも、きつと正解が載っているはずですよ。  
英語のたぐらみ フランス語のたぐらみ (東京大学出版会) は齋藤光史、野崎敏の両氏が「語学×翻訳×文学」を語り尽くす「帯」より、近年稀にみる快著。第一線で活躍する翻訳家の立場からの提言も貴重だが、現場の語学教師として、実用指向の安易な語学教育に厳しい目を向けつつ、文法・読解学習の有効性・重要性を説いていくくだりなどは、非実用的にしか字ばなかつた身にはうれしい。この本では

黒田龍之助の 語学書書評  
CDエクспレス スワヒリ語  
この本の前身である『エクспレス スワヒリ語』を編集の方からいただいたのは一九九五年の夏。暑いのに弱い私は、冷房がガンガン効いた部屋に寝そべって、なんとなくページをめくり始めた。文字と発音の関係は非常にシンプルだった。英語と同じラテン文字を用い、しかも余計な記号は一切付けない。目新しいことはない。それから全二十課のレッスンが始まる。他のエクспレスシリーズと同じく、一課四ページの構成で、初めの見開きは左に本文、右に単語と訳。これが私の馴染んできたヨーロッパ系の言語だったら、単語を横目で見ながら本文をほとんど読み進められる。ところがスワヒリ語の場合、そうはいかなかった。たとえば第一課の単語欄にも、「主辞」とか「時制辞」といった、よく分からない文法用語が出てくる。そこで先に解説を読むことにする。どうやらヨーロッパ系言語とは違つて、発想を変えなければ、ここではヨーロッパ文法中心主義を捨てて、発想を変えなければ、先を読み進める。いつでも解説を先に読まなければ、本文はちつとも分らない。そして第三課で名詞クラスの話に行きつく。「スワヒリ語の名詞は8つのクラス(部類)に分けられます。各名詞には固有の接頭辞がついていて、その接頭辞で名詞クラスや一部を除き単数、複数の別が分かります」ここで急に思い出す。ああ、そうか。そういえば一般言語学の授業中に、スワヒリ語のようなアフリカのバントウ諸語には名詞クラスがあるという話が出てきた。あのときはなんだかピンと来なかつたけど、いまこうして具体的に例文を読みながら解説を読んでいると、もう少し分かつたような気がする。寝そべっていたのがいつのまにか起き上がって、一人で興奮している。なんだか暑い。冷房の設定温度を更に下げなければ。  
言語学の教科書をいくら読んで、ことばのしくみには迫れない。たとえ少しもいから、いろいろ言語の世界を具体的に覗いてみなければ。以来、『CDエクспレス スワヒリ語』は言語学の授業で参考書として、必ず紹介している。  
(筆者) 明治大学理工学部助教授

『CDエクспレス スワヒリ語』  
ベストセラーの入門シリーズ《エクспレス》にCDが付いた! 速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎がマスターできると大好評。語学の白水社が贈る、入門書の決定版!  
アブディ・ファラジ・レハニ著 A5判/135頁 定価2940円(本体2800円)【CD2枚付】